ブロック名：	当別・新篠津

新型コロナウイルス感染症の対応について

《養護教諭の実践・支援》

児童生徒の様子（感染症に関わって）	臨時休校明けは、生活リズムの乱れた様子が見られたが、1 か月経った頃から落ち着いてきた。小学校では、児童から挨拶が返ってこない、「帰りたい」と訴えがあるなど、元気のない様子や不安そうな様子がみられた。中学校では、勉強の遅れや学校行事の中止・延期に対する不安を訴える生徒が多くみられた。週末が近づくと来室が増える傾向があったり、腹痛や頭痛、倦怠感などを訴えて児童生徒の保健室利用が増えたりした。
児童生徒への指導	こまめな手洗いや、咳エチケット、ソーシャルディスタンスなどについて、保健だよりを活用しながら学級で指導してもらった。
家庭・教職員への情報発信	学校だよりや保健だよりを通して、家庭での健康管理や学校での感染対策について情報を発信した。
その他	

《各校の現状》

校内の消毒方法	次亜塩素酸ナトリウムの希釈液やアルコール消毒液を用いて、校内の児童生徒の机・椅子やトイレ、その他手が触れる所を定期的に消毒している。文科省の衛生管理マニュアルが改訂されてからは、机・椅子の消毒をやめ、ドアノブや手すりなど、手が触れる場所を中心に消毒している学校もある。
清掃活動の対応	小学校では、トイレの清掃は児童にさせず、教職員や保護者の協力を得て清掃を行っている学校もある。また、雑巾を触ることによる感染のリスクをなくすため、拭き掃除を児童にさせていないという学校もある。

給食の対応	班隊形にせず、全員が前を向いて食べている。食事中の会話もできる限り控えるよう指導している。また、毎食事に担任が「給食当番健康観察票」を記入し、当番がエプロン・三角巾を着用しているかチェックしたり、体調の悪い児童生徒が配膳をしたりしないよう注意している。密を避けるため、牛乳パックの洗浄（リサイクル）をやめた学校もある。
健康観察シートの対応	朝、登校してきた時点で発熱やかぜの症状の有無について確認している。検温忘れの児童生徒がいた場合、別室で検温するなどの対応を行っている。
保健室来室者の対応	発熱など、感染症の症状で来室した場合は、保健室で経過を観察したりせず、原則、直ちに家庭に連絡して早退の措置をとっている。
熱中症対策	体育の授業や休み時間にはマスクを外して活動させている学校が多い。また、教室に扇風機やスポットクーラーを設置したり、こまめな水分補給を呼びかけたりしている。水筒の持参を認めている学校がほとんどである。また、サマータイムを導入し、日課を早めて涼しいうちに活動できるよう工夫している学校もある。
教育委員会の対応 （必要物品の配布等）	消毒作業に用いるゴム手袋や次亜塩素酸ナトリウムの他、マスクなどを支給してもらえた。アルコール消毒液はもらえることもあったが、品薄だということもあり、要望しても支給されない状況が続いている。
その他	

《今、困っていることや交流したいこと》

- 宿泊行事の感染対策について（保険に関わること、体調不良者が出た場合の対応など）
- 学校祭や学芸会の感染対策について